

Q. 市民要望のない「場外馬券場」はギャンブル施設であり反対する

A. 公営馬券場は福祉の向上にかなっている



ここを聞きました

- 新高梁中央図書館について
- 国民健康保険について
- 旧「ゆ・ら・ら」を場外馬券場として売却することについて
- 高梁市職員労働組合事務所の設置場所について

■ 新高梁中央図書館について

石部 市民と市長が望む図書館建設に違いがある。生涯教育や歴史伝統を守るべき図書館が駅前のにぎわい図書館になっている。CCCは指定管理者として適正で中央図書館機能は保障できるのか。

教育次長 基本構想に基づき水準書を作成する。CCCの活動は教育委員会がモニタリングする。市民の参加は必要である。

■ 国民健康保険について

石部 不況により商売人や農業従事者の収入減、また非正規雇用や年金生活者の増加で生活が大変。国保税の負担軽減を望む。

健康福祉部長 今回は当初予算を組むための3%の引き上げであり、本算定時の引き上げはできるだけ抑制したい。

■ 場外馬券場に反対する

石部 「ゆ・ら・ら」は多額の税金を注ぎ込んだ上に破綻。市民の財産「ゆ・ら・ら」を場外馬券場・ギャンブル施設に売却するのは反対である。また市民に知らせないまま進めていることについて二重の裏切りがある。

政策監 「ゆ・ら・ら」は健康増進施設として役割を果たしてきたと考える。今後は、事業者に決定通知をし仮契約を行いたい。また、その前に地元への説明を手順を踏みながら行いたい。

教育次長 馬券場は教育上、青少年の健全育成、安全面など配慮なされるべき施設である。

市長 施設はやむを得ず売却する。他の公営馬券場施設同様、福祉の向上にかなうと考える。



ここを聞きました

- 駅前複合施設の建設コスト及び将来にわたる費用負担について
- 旧「ゆ・ら・ら」を地方競馬場外馬券販売事業者へ売却することについて

■ 1億5700万円 CCCとの指定管理料について

宮田 現在の図書館運営予算は年間平均して5000万円程度である。3倍にものぼるCCCとの年間指定管理料1億5700万円をどのように捻出していくのか。

政策監 住民サービスの拡大により経費がふえることはいたし方のないことである。全体として予算調整の中で財源を確保していく。

英コーポレーションは本当に地方競馬の馬券を販売できるのか？

宮田 地方競馬の馬券を売るためには、地方競馬主催者の引き受けが必要となっている。農林水産省に確認したところ現時点では引き受けは成立していない。このよう



老人施設、子ども達の遊具施設、スポーツ公園、宿泊施設など「ゆ・ら・ら」周辺施設の特性に応じた活用策が必要です。

な状況であるが、副市長、政策監は自分の進退をかける気概で事臨んでいるのか。

副市長 きちつと答弁という質問の内容が私の覚悟の話であれば、そのつもりである。

Q. 薬用作物を研究してはどうか

A. 調査を含め、27年度で取り組む



ここを聞きました

- 本市の基幹産業である農業の施策について
- 道路行政について

■ 本市の基幹産業である農業施策について

三村 高齢化と耕作放棄地がふえている農業について薬用作物による施策を考えるべきではないか。

市長 薬用作物は260種類あり、83%は輸入されている。高梁市にどういったものが必要か検討する価値があると考えます。

三村 薬用作物は今、国の中で旬な話題である。地方創生交付金を使って取り入れてもらいたい。

市長 高梁市に何が適するか、安定的に生産できるか調査が必要である。耕作放棄地の解消対策にもつながるため、産地化できるように平成27年度で取り組む考えである。

■ 道路行政について

三村 県道の改良率が極めて低い。今後、計画策定も含めどのように進めていくのか。

産業経済部長 改良済みとは2車線の道路もあるが場所によっては4以上でも交通事情等により改良済みの箇所もある。新見川上線は98%の改良率になっている。

三村 未着手箇所が改良済みとなっているから改良率が高くなる。今後どのように対応されるか。

産業経済部長 県、国土交通省へ強く要望する。

■ 市道の認定基準について

三村 市道認定基準の「交通事情及び公益的見地から特に市長が必要と認める道路」とはどんな場合をいうのか。

産業経済部長 合併で統一した認定基準を定めており、基準なしに決めるのはどうかと考える。私道の修繕についても平成27年度から補助基準を設けているので活用してもらいたい。



ここを聞きました

- 空き家対策について
- これからの学校教育について
- 旧「ゆ・ら・ら」の売却について

Q. 地域の活性化に場外馬券場は必要ないのでは

A. 神原地区には地域の活性化が必要であると思う

■ 街に人を集める力となる独自性ある教育を

石井 総社市や笠岡市などが英語教育に力を入れている。高梁市でも子供の将来を見据えた教育の独自性を出していくべきではないか。

教育長 変化の激しい社会に適切に対応する力を育成していくという意味から、専門性の基礎づくりをする必要は当然であると認識している。

石井 高梁市では子供に十分な教育ができないために出ていく人もいる。教育が町の魅力になって人が集まることもあるのではないか。

教育長 高梁市は小規模校が多い。その利点を生かしてそれぞれの学校で取り組んでいる。

■ 女性が住みやすい街には場外馬券場はいらない

石井 場外馬券場をつくることは、女性が住みやすいまちづくりに逆行するのではないか。

政策監 経済的なメリットと、地域に人が来られることでそういう方向性を出していきたい。

石井 道の駅のようなものをつくって観光の拠点にしてほしいという声もある。にぎわいはほしいがギャンブルはいらないというのが女性の正直な声だ。観光地よりも馬券場がある町として知名度が上がるようなことにならないよう、よく考えてから決定してほしい。